



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

腎移植の導入に向けた多職種協働「腎移植教育プログラム」の効果と課題

腎移植の導入に向けた多職種協働「腎移植教育プログラム」の効果と課題

旭川医科大学病院 外来ナースステーション 安藤 伸

【目的】

腎移植導入にあたり、病棟看護師の不安を補い質の高い腎移植看護を行うために、多職種協働による腎移植教育プログラム（以下プログラム）を実践し、その効果と課題を明らかにする。

【方法】

対象 は看護師34名。講義はDVD化し実施後にミニテスト（8割以上合格）とプログラム前後にアンケートを実施した。講師は医師・レシピエント移植コーディネーター（以下RTC）・がん化学療法看護認定看護師・薬剤師で、机上演習はRTCが担当した。アンケート結果は記述統計を用い、自由記載は質的に分析した。所属施設 倫理委員会の承認を得た。

【結果】

アンケート回収率は94%、テスト合格率は100%だった。プログラム前後の理解度と腎移植術後管理への不安の項目に有意差を認めた（ $P<0.05$ ）。プログラム前の自由回答から抽出されたカテゴリーは《不安》《知識不足》《学習ニーズ》だった。プログラム後は《不安》《学習ニーズ》と、新たに《腎移植看護実践の困難感》《血管内脱水補正指示（以下追いかけ輸液）の実践への不安》《腎移植看護の患者教育・指導の重要性》《腎移植導入に向けた勤務体制整備》《腎移植教育プログラムの充実・有用性》であった。

【考察】

プログラム前後の理解度に有意差を認め、プログラムは理解促進の効果があった。学習者はプログラムや実践を通し、腎移植看護への《不安》《困難感》を感じ、急性期病棟で腎移植を導入する《勤務体制の整備》《患者教育・指導の重要性》等、ケアの質向上への課題を認識していた。さらに《不安》や《困難感》の要因だった追いかけ輸液の演習を含むプログラムに有用性を感じ、実践レベルの不安が焦点化され、能動的に《腎移植看護の学習ニーズ》を高め、実践への準備状態に繋がった。今後も継続的な教育支援が必要である。